

1 教育目標

- 明るく健康な子ども
- よく考え、進んでやり抜く子ども
- 力を合わせて働く子ども

2 本年度学校教育の努力点とその推進計画

(1) 努力点の主題

互いを認め合い、自分や友達の考えを大切にできる子の育成

(2) テーマ設定の理由

「ナゴヤ学びのコンパス」では、『ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける』児童を目指すとされている。令和6年度、本校では「ナゴヤ学びのコンパス」を基に「互いを認め合い、考えを深める子の育成」をテーマに実践を進めた。実践を進めるにあたり、明星大学の細水保宏氏を招き、本校教員の授業をみていただいたり、ご助言をいただいたりし、次のことを大切にしようと考え実践に取り組んだ。

授業で大切にすること

- ① 児童一人一人が自分の考え方を表すこと（自律）
- ② 表された考え方について友達と対話（比較・検討）すること（協働）
- ③ 発展する場を創り、児童が学んだことを生かして次の学習に取り組むこと（自律）

その結果、一人一人が考えをもって友達と話したり、発展する場で、学んだことを生かしたりすることでテーマに迫る成果を得ることができた。一方、上記の「授業で大切にすること」は行うが、本時のねらいを達成するための工夫が不十分であったり、どのような姿を目指しているのかが分からなかったりするという課題が挙がった。

そこで令和7年度は、昨年度の課題を踏まえ「授業で大切にすること」は継続して取り入れ、指導案に本時のねらいを達成するための工夫を示すことで、「互いを認め合い、自分や友達の考えを大切にできる子」を目指していく。「自分や友達の考えを大切にする」とは、様々な考えに触れ、その考えを取捨選択して、自分の考えに生かしていく姿のことを指し、「ナゴヤ学びのコンパス」で目指す姿につながる。

(3) 実践の方法

① 授業実践

各学級担任は、年1回授業を公開し、指導方法や手立ての有効性について学び合う。公開する授業では、①②③すべてを取り入れなくてもよいこととする。各学年1学期に1実践、2学期に1実践となるように調整する。校長、教務が参観可能な日に行う。

② 事前検討について

実践の見せ場となる場面や指導する上で悩むところについて各部会で模擬授業（10～15分程度）を行う。異なる部会でも希望があれば参加可能とする。板書計画は、指導案に必ず掲載することとするが、模擬授業の板書の写真を指導案の板書計画に掲載してもよい。

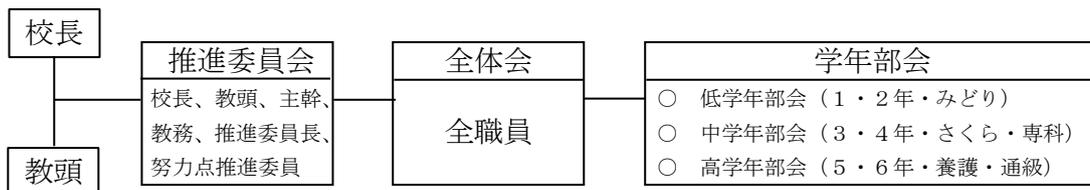
③ 事後検討について

各部会で事後検討を行い、成果と課題を共有する。

④ 保護者への情報公開

学校だより、学年だより、ホームページ等に努力点の取り組みを掲載する。学年だよりには、1学期、2学期に1回ずつ努力点の取り組みを掲載する。

(4) 組織



- ・ 各学年より推進委員を1名選出する。